

平成23年度

学校シーニックバイウェイの取り組みについて －「南十勝夢街道」の地域連携活動－

南十勝夢街道 ルート運営代表者会議

○山崎 和夫

加藤 修治

帯広開発建設部 道路計画課

古市 直人

十勝管内では3つのシーニックバイウエールートが独自性を保ちながら連携し、十勝ブランドを強力に発信している。その中の1つ「南十勝夢街道」は、「学校シーニックバイウェイ」の活動を全道に先駆けて開始した。地域の子どもにシーニックバイウェイの思想を伝えるとともに、子ども達自らが地域資源を見つけマップ化し、自らの地域をPRする活動である。本稿では、活動の取り組み方と継続性のポイントを報告する。

キーワード：シーニックバイウェイ、観光・景観、地域交流・連携、地域活性化

1. はじめに

(1) シーニックバイウェイの概要

シーニックバイウェイ (Scenic Byway) とは、景観・シーン (Scene) の形容詞シーニック (Scenic) と、わき道・より道を意味するバイウェイ (Byway) を組み合わせた言葉である (以下、S B W)。アメリカで取り組まれている制度を参考に、平成 17 年度より全国に先駆けて「S B W 北海道」¹⁾ として本格的にスタートした。

「みち」をきっかけに、地域住民が主役となり、行政や企業等と連携しながら、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら个性的地域、美しい環境づくりを目指す施策を言う。

北海道開発局では、平成 23 年度末現在、全道で 11 の指定ルートと、1 つの候補ルート（ルート指定の準備段階）を選定し、S B W の取組を促進している。ここで言う「ルート」とは、道路を含む地域全体を指す。

十勝管内には、平成 23 年 7 月にルート指定された「南十勝夢街道」の他、「十勝平野・山麓ルート」、「トカプチ雄大空間」とあわせ 3 つの指定ルートがある。それぞれのルートは、独自性を保ちながら連携し、全体として十勝ブランドを強力に発信していくため、「十勝 S B W」として様々な活動を行っている。図-1 に S B W 北海道範囲図を示す。

(2) 南十勝夢街道のルート概要

当ルートは、活動のテーマである「夢を育む海と大地と清流のみち」の通り、ルート内には南十勝のどこからでもその雄大な姿を望むことが出来る日高山脈が連なり、そこから流れ出る幾つもの清流が太平洋へと注いでいる。清流の途中には、日高山脈からの恵みを背景とした豊かな農村景観が広がり、これらの豊かな自然環境や農村景観はルートの特徴となっている。

南十勝夢街道（地域の民間等 37 団体で構成）は、この素晴らしい環境を大切に、歴史と文化を活かしながら地域活性化を目指している。そして、地域の子供たちに夢を与え、その子供たちが大人になってからも住み続けたい・守り続けたいと思えるような地域づくりを目標としている。

(3) 南十勝夢街道の活動課題

活動の課題としては以下の点が挙げられる。

a) 活動の継続性

現在の活動は、地域活動を古くから行っている団体やメンバーが中心となっており、活動を継続・発展させるためには世代交代を円滑に進める必要がある。

b) 活動の発展性

活動を発展させるためには、地域に根ざした多様

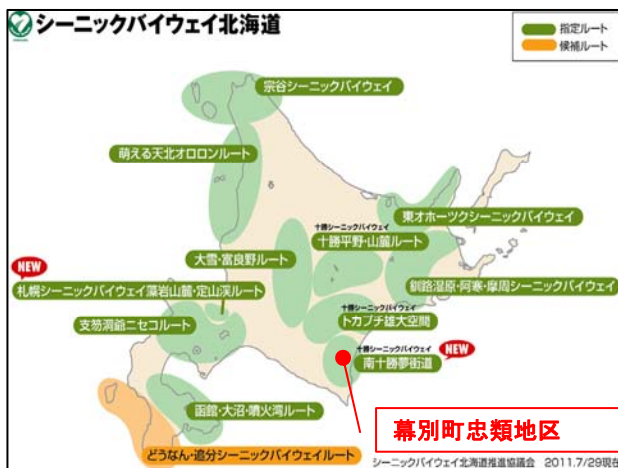


図-1 SBW北海道範囲図

な人々が参加するきっかけをつくり、新たな視点や発想を導入し、地域の新たな魅力発見を行う必要がある。

上記課題を解決するため、当ルートは全道に先駆けて「学校シーニックバイウェイ」（以下、学校S BW）の取り組みを開始することとした。

本稿では、学校S BWの取り組み方のポイント、継続性のポイント、および今後の展開を紹介する。

2. 学校S BWの概要

(1) 学校S BWの開始経緯

当ルートでは、花植えや清掃活動を中心とした環境整備、フォトコンテストの実施、景観が優れた場所で開催するシーニックカフェ²⁾等の活動を行ってきた。こうした活動は、長く地域活動を行ってきたメンバーを中心として実施されており、活動の継続や一層の発展のためには、新たな視点や発想の導入が必要と考えた。

そこで当ルートは、授業で子どもにS BWの思想を伝えた上で、子ども達が地域のおすすめ情報を話し合い、これを地域資源としてマップ化する活動を行うこととした。マップは他地域の人に向けて自分の地域を案内・PRし、おもてなしを行うツールとして使用する。S BWについての学び、地域資源のマップ化、地域のPR、この一連のプロセスを通して子ども達がS BW活動に関心を持ち、将来の地域づくりの担い手確保への効果が期待できると考えた。

子どもを対象としたのは、既存の活動は大人が中心であり、子どもの自由な発想が地域の新たな魅力発見に繋がると考えたことと、子どもが学校S BWの取り組みを親をはじめとした大人に話すことで、子どもから大人までのより広い範囲への波及効果が期待できるためである。

一方、大人は子どもが教えてくれる景観、場所、施設、食、体験といった新たな地域資源に気づかされ、こうした地域資源を将来に残すために行動する役割を担う。

(2) 学校S BWの定義

当ルートでは、学校S BWの定義を「ルートのメンバーが学校授業等の中で、子ども達へS BWの思想を伝えながら、おもてなしの心を養うための諸活動」と考えた。

学校S BWの取り組みで最も重要となるのは、S BWの思想を伝える授業である。地域の大人がS BWの思想を伝え、どのような考えを持ち地域活動を行っているかを教えることで子どもの関心を引き

出せれば、一層理解が進みその後の取り組みが円滑に進む。

次に、子どもが地域のおすすめ情報を話し合い地域資源としてマップ化することも重要である。子どもが考える地域のおすすめ情報は大人にとっては地域の新たな資源発掘として役立つ。子どもにとってはマップ化により、今までやってきた成果が形として表れ、より一層理解が深まる。

最後に、マップを使用して自分の地域をPRし、地域活性化を目指す。他地域の同年代の子ども達が自分の住む地域を訪れた時に、作成したマップを元に地域を案内しPRする機会が得られることで、自分の住む地域への自慢や誇りを持つことができる。

学校S BWの対象となるのは小学生から大学生まで全ての学校である。ただし、学校S BWの取り組みのメリットは各年代により異なる。小学生は楽しければ取り組みに参加してくれるが、中学生以上はなんらかのメリットが必要と考える。例えば、高校や大学で園芸やボランティア活動を行っている学生には、地域活動団体が植樹等花植えのための敷地として提供し、地域の花植えを協働で行うことが考えられる。学生にとっては普段の成果を多くの人に披露できる機会となる。

(3) 学校S BWの進め方

学校S BWの進め方は、以下の通りと考える。

a) 関係機関との授業実施の調整

授業実施にあたり、事前に学校や教育委員会等と調整を行う必要がある。ここでは学校S BWの実施目的と効果や授業内容を説明し、了解が得られれば授業日時を決める。

b) 授業の実施

授業ではまず、地域活動を行う大人が子どもへS BWの思想を伝え、どのような考えを持ち地域活動を行っているかを伝える。

その後子どもが地域のおすすめ情報を話し合い地域資源としてマップ化する。

c) マップの配布

作成したマップは道の駅や宿泊施設等の地域情報発信拠点で配布する。

d) 訪れた人へのおもてなし

他地域の同年代の子ども達が自分の住む地域を訪れた時に作成したマップを元に地域を案内・PRし、おもてなしをする。

3. 学校S BWの詳細および効果

幕別町忠類地区（図－1）の幕別町立忠類小学校で実施した、学校S BWの詳細および効果を述べる。

(1) 関係機関との授業実施の調整

当ルートでは、授業実施2か月前に忠類小学校で打ち合わせを行い、授業実施の了解を得ることができた。学校によっては前年度に授業の年間計画が決まっている場合があり、学校や教育委員会との打ち合わせ時期に注意を要する。

打ち合わせでは、学校S BWの実施目的と効果、授業の実施内容を説明した。実施目的と効果では、学校S BWを通して子ども達が地域のことを見つめ直すことで、自分が住む地域への自慢や誇りが得られること、大人は子ども達が考える新たな地域資源を発掘でき、また子どもが地域活動に加わることで将来的な地域づくりへの効果が期待できることを説明した。

(2) 授業の準備・実施

a) 授業の準備

授業の準備としてマップのベースとなる白地図(図-2)と、授業で使用する学校S BWの説明資料(図-3)の2点を作成した。

白地図の作成では、地図上に表示される道路や河川、地域の主要な建物を表示し、地図上で距離が正確にわかるように、実際の地図をトレースし白地図を作成した。

今回、白地図およびマップの作成では地域のイラストが得意な方のご協力を頂けたためスムーズに作成することができた。



図-2 白地図の作成(幕別町忠類地区)

b) 授業の実施

授業では、まず我々が子ども達にS BWの思想を伝え、どのような考えを持ち地域活動を行っているかを教えることから始めた。説明では、S BWとは何か、何をするのか、なぜ行っているのかを分かりやすく伝えることを心がけた。(図-3)

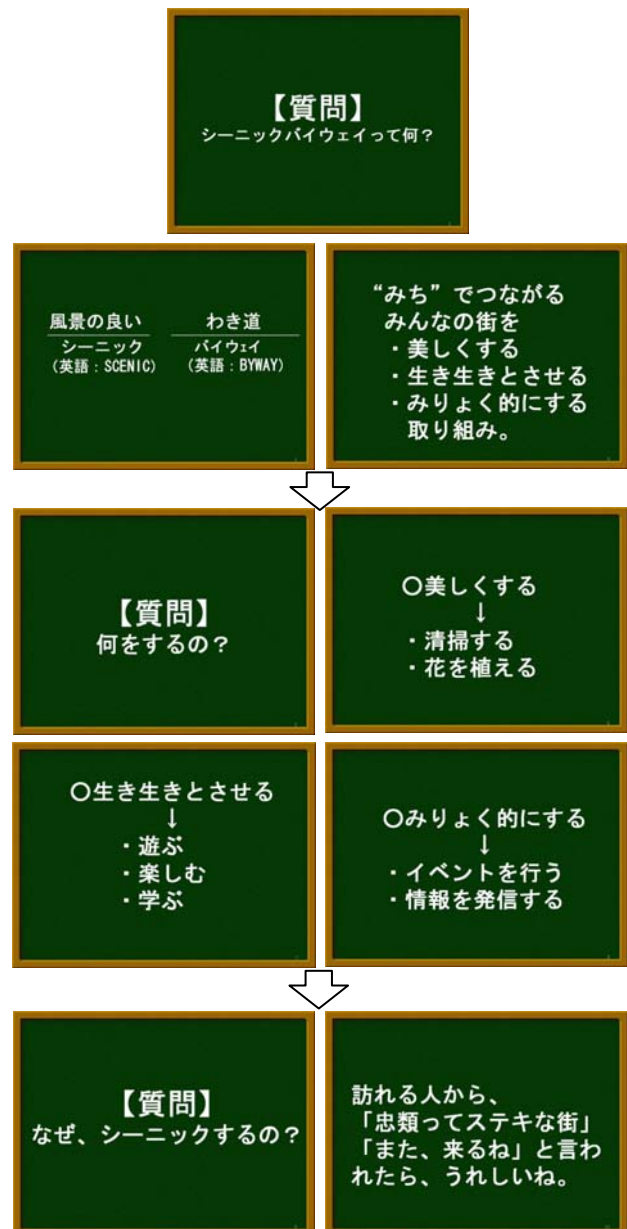


図-3 学校S BW説明資料(PPT)

次に、子ども達が集まり、自分の住む地域のおすすめ情報を事前に作成した白地図(A0版)に書き込んだ(写真-1)。今回の授業は冬期に行ったため、忠類地区の冬の良いところや面白い遊びを中心に意見を聞いた。子どもからは、地域のシンボルである雄大な日高山脈の景観をおすすめする意見が出たほか、「温泉の露天風呂では凍ったタオルでチャンバラができる」「かた雪(畑に積もり固まった雪)の上を歩ける」など、子どもらしい発想の意見を多数聞く事が出来た。



写真－１ 学校S BW授業状況

その後、白地図に子ども達から出た地域のおすすめ情報を子どものイラストと吹き出しコメントで書き込み、写真を追加して「冬のたんけん夢マップ」（図－４）として完成させた。

マップの作成においては、子どもだけでなく大人も活用できるよう心がけ、地域のお店情報も掲載した。

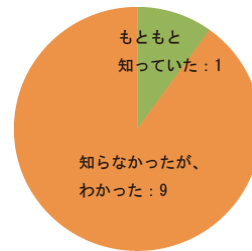


図－４ 冬のたんけん夢マップ（幕別町忠類）

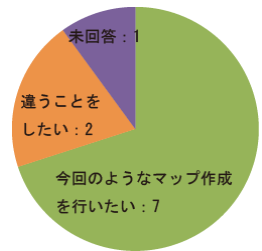
図－５に学校S BWについてのアンケート結果を示す。授業前にはS BWという言葉は知っていても、意味まで理解している子どもはほとんどいなかったが、授業実施後には全員に理解してもらうことができた。また、今後も今回実施したマップ作成の授業を行いたいとの意見が多く、授業内容も好評であったといえる。

先生からは、マップのベースとなる白地図はしっかりと作成した方が良いが、イラスト等マップの一部を子ども達で作成した方がより授業効果が上がるのではないかと、との意見があった。

Q：S BWの意味がわかりましたか？



Q：次回学校S BWの授業を行うとしたら？



N=10

図－５ 学校S BWアンケート結果

授業の実施にあたり、我々にはいくつかの不安があった。

1点目は、S BWの思想が子どもにうまく伝わるかという不安である。これに対しては、S BWについて分かりやすく説明することはもちろん、子ども達が楽しめる雰囲気づくりを目指した結果、理解してもらうことができた。

2点目は、ゲーム等の室内遊びが慣習化する中、屋外での地域のおすすめ情報が出なかったらどうしようという不安である。これについては、子どもの柔軟な発想で多数のおすすめ情報を聞くことができ、心配することはなかった。

3点目は、授業を春・夏・秋・冬に分けて行うことの意味への不安である。1回で全ての季節の授業をやれば良いのではとの考えもあるが、学校では、この地域のたくさんの資源を四季毎に表現するマップ作成は重要と考えており、今後も四季毎の授業を行っていきたいと考えている。

(3) マップの配布

今後、春・夏・秋版のマップも完成させ、平成24年度には道の駅や宿泊施設等の地域情報発信拠点で配布する予定である。

(4) 訪れた人へのおもてなし

学校S BW授業で作成したマップを有効活用するためには、訪れた人にマップを使用した地域案内・PRを行い、おもてなしを行うことが必要である。また、作成したマップが他地域の人にとっても魅力的であるか効果把握を行うことも必要であった。

このため、(社)北海道開発技術センターが実施する「沿道の環境を守り、活用する団体との共同研究事業」を活用し、道央圏の親子が南十勝地域を訪れるモニターツアーを実施した。ツアーでは、南十勝地域ならではの体験を数多く取り上げ、地元の子どものふれあいも盛り込んだ。ツアー終了後には、ツアーの満足度や「たんけん夢マップ」の効果についてアンケートを行った。

ツアー実施にあたり、忠類地区以外では学校S

BWに取り組んでいなかったため、他の4町村で各1校ずつ授業を実施し、各地域の子どものおすすめ情報を聞いた。その一部を紹介する。

【地域の良いところ・自慢できるところ】

- ・ナウマン象の発掘（幕別町忠類）
- ・日本唯一のサンタランド、イルミネーション（広尾町）

【案内した場所で何をして遊ぶか】

- ・忠類神社で落ち葉を拾いしおりにする（幕別町忠類）
- ・歴舟川で砂金掘り（大樹町）
- ・大丸山で遊具遊び、川でザリガニ釣り（広尾町）

【四季のおすすめ】

- ・冬でもパークゴルフができる（冬・幕別町忠類）
- ・十勝神社の桜（春・広尾町）

a) モニターツアー概要

期間	平成23年12月10日～11日 1泊2日
参加者	道央圏の11組29人の親子 (5才～11才の子ども)
行程 (1日目)	札幌発（貸切バス） 半田ファーム（昼食） 航空宇宙公園（JAXA）（見学） 写真-2 広尾サンタランド（キャンドル作り） 写真-3 ナウマン温泉アルコ236（宿泊） 地元の子どものよるロビーコンサート 写真-4 星空観望会
行程 (2日目)	搾乳体験 写真-5 パンのおうち作り ナウマン象記念館（見学） フェリエンドルフ（昼食） 十勝野フロマージュ（工房見学） アंकフル・ヒロ（クッキー） 18:00 札幌着

表－1 モニターツアー概要



写真－2 航空宇宙公園（JAXA）見学（大樹町）



写真－3 キャンドル作り（広尾町）



写真－4 ロビーコンサート（幕別町忠類）



写真－5 搾乳体験（幕別町忠類）

b) モニターツアーの効果

アンケートの結果、モニターツアーの満足度は非常に高かった。感想の一部を抜粋し紹介する。

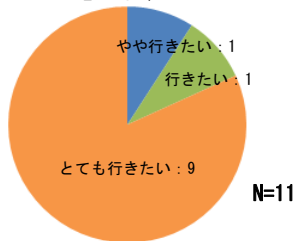
- ・普段できない牛のエサやり、ブラッシング、搾乳を体験できとても楽しかった（10才女の子）
- ・キャンドル作りや搾乳体験、パンの家作りなどの体験が多くとても楽しめました（5才男の子）
- ・航空宇宙公園では飛行船の体験ができ、親子共々興奮しました。随行スタッフがとても親切でした。また十勝に遊びに来たいと思います（40代女性）
- ・航空宇宙公園での説明が子どもには難しかった。また、夕食は子どものメニューがあれば嬉しかった。（30代女性）
- ・ロビーコンサートは子どもから大人まで楽しめると思う。生演奏を聴くことも無いので良かった。（7才女の子）

自由回答からは体験（航空宇宙公園での飛行船体験・搾乳体験・キャンドル作り等）への満足度が非常に高いことがわかった。

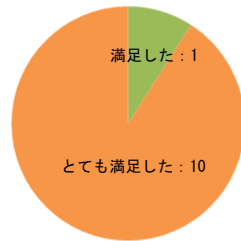
宿泊先で開催したロビーコンサートは南十勝地域の子どもも参加し、道央圏の子どもをもてなす機会を設けた。この時に、道央圏の子どもから南十勝地域の子どもの自信を深めることとなった。ツアー参加者の楽しそうな様子やアンケート結果から（図－6）、南十勝地域の子どもの魅力であったと考えられる。また、一緒に参加した親の満足度も高く、再度南十勝を訪れたいとの意見が多かったことから、大人に対しても十分魅力的な内容であったと

いえる。一方、反省点として、子どもの年齢に応じた体験メニューの組み合わせ、説明内容、食事内容について、もう少し検討するべきだったと考える。

Q：今回のツアーをきっかけに、十勝の違う場所にも行ってみたいと思いますか？



Q：今回のツアーに参加して満足しましたか？



図－6 モニターツアーアンケート結果

ツアー催行会社からは、参加者の反応が非常に良かったため、今後も同様のツアーを実施したいとの意見を頂き、更なる発展が見込まれるところである。

また、「たんけん夢マップ」を見た道央圏の子どもからは「露天風呂でタオルのチャンバラがしたい」「畑の固雪を歩いてみたい」という声があった。今回は寒さが厳しくなく、冬期ならではの体験ができなかった事が残念であった。親からも面白い取り組みだと好評であり、今後も学校S BWに取り組んでいく上で励みとなった。

4. おわりに

以下に、これまでの学校S BWの取り組みから得られた、取り組み方と継続性のポイントおよび今後の課題・展開をまとめる。

(1) 取り組み方のポイント

a) 学校等の理解を得ること

学校S BWの実施のためには、何よりも学校等教育機関の理解が必要となる。この取り組みは、短期的には子どもの地域への誇りの醸成や新たな地域資源の発掘、長期的には地域づくりの担い手確保等の効果があり、子どもと大人双方にとって利益があることを説明し、理解してもらうことが重要である。

b) 子どもに楽しい活動だと認識させること

学校S BWの中心となるのは、子どもの発想や気づきであり、子どもの意見は非常に重要である。このため、子どもが学校S BWを楽しい活動と認識し、授業の中で活発に意見を出せるように、大人は楽しく取り組める環境整備を行うことが重要である。

(2) 継続性のポイント

a) 毎年授業を行うこと

総合学習の一環として、学校S BWを年間スケジュールに取り入れてもらい、活動を継続的に行って

いく。授業は学年を固定して実施することで、毎年新たな子どもの意見を聞くことができ、学校S BWの取り組みが幅広い世代に広まることが期待できる。

こうした取り組みから、子供たちが大人になった時に住み続けたい・守り続けたいと思えるような地域づくりを行う人材が輩出されれば、地域活動の継続性も高まると考えている。

(3) 今後の課題・展開

a) 取り組みの拡大

学校S BWの取り組みを拡大するとともに、「たんけん夢マップ」の充実化に取り組むたい。具体的には、南十勝地域5町村全体の四季毎のマップ作成、および各町村の四季毎の地域詳細マップ作りを進めていきたい。

b) マップ作成予算の確保

今回は、地域の方に無償でマップ作成にご協力頂いたが、他の地域においてはマップ作成予算が必要となる。予算は地元自治体からの補助金や、教育を題材とした財団等の助成金等により確保したいと考えている。本マップは、子どもの夢を育むマップであり、学校S BWの取り組みやその効果等から、既存の観光マップとの違いを明確に説明し、予算の確保に努めたい。

最後に、学校S BWは活動の継続性、発展性といった当ルートが抱える課題に対し、地域にS BWを浸透させ、新たな視点から地域資源を発掘することができ効果があったといえる。このため、当ルートでは学校S BWの活動を継続し、地域の子供たちに夢を与え、その子供たちが大人になってからも住み続けたい・守り続けたいと思えるような地域づくりを行っていききたいと考えている。

また、平成23年12月3日に札幌市で開催されたS BW北海道「全道フォーラム」において、学校S BWに対する評価が高かった。理由は、他地域でも活動の進展により参加するメンバーが固定化され、活動の一層の推進のために新たなメンバーを必要としており、子どもを活動に取り入れるという点で多数の共感を得たためである。

今後当ルートの取り組みを基に、他地域においても学校S BWが広く展開されることを期待する。

参考文献

- 1) シーニックバイウエイ北海道 “みち” からはじまる地域自立（シーニックバイウエイ支援センター平成18年8月）
- 2) 「シーニックカフェちゅうるい」の取り組みについて－「南十勝夢街道」の地域連携活動－（平成22年度北海道開発局技術研究発表会）